

平成 30 年 8 月 10 日

行財政改革・大都市制度調査特別委員会

企画調整部 企画課
総務部 人事課
市民部 市民協働・地域政策課

新たな行政区、行政サービス提供体制について

～ 持続可能な行政区、行政サービス提供体制の協議・検討 ～

◆ 配付資料 ◆

- 地区自治会連合会等を対象とした説明会・実施結果

地区自治会連合会等を対象とした説明会・実施結果

1 地区自治会連合会

(1) 対象者 地区自治会連合会長等

(2) 実施時期等

	日時		会場
中区	7月31日 (火)	10:00～11:30	浜松市役所
東区	7月27日 (金)	9:30～10:30	東区役所
西区	7月20日 (金)	9:30～10:30	西区役所
南区	7月24日 (火)	9:30～10:30	五島協働センター
北区	8月7日 (火)	9:30～10:30	引佐協働センター
浜北区	7月23日 (月)	10:00～11:00	浜北区役所
天竜区	7月26日 (木)	13:30～15:00	天竜区役所

2 市民活動団体等

(1) 対象団体 浜松北地域・細江・引佐・三ヶ日まちづくり協議会
※天竜区内のまちづくり協議会、NPO等は地区自治会連合会と同時開催

(2) 実施時期等

日時		会場
8月7日 (火)	11:00～12:00	引佐協働センター

3 区協議会

(1) 対象者 各区協議会会長

(2) 実施時期等

日時		会場
7月23日 (月)	19:00～20:30	浜松市役所

2 鈴木副市長からの説明概要

(1) 12 市町村の合併の経緯について

- ・ 旧浜松市は 60 万人の中核市であったが、同規模の静岡市が清水と合併し、先行して政令指定都市を目指す中、旧浜松市においても政令指定都市の人口要件を満たすため、近隣市町村に声掛けした。旧浜松市以外の 11 市町村は少子高齢化、人口減少が見込まれていたことから、12 市町村で連携し政令指定都市として発展していくことを目指して合併をした。
- ・ 新市の基本的な共通認識として、1 つ目は各市町村固有の文化や特徴ある伝統は尊重し、守り育て続けること、2 つ目は地域の特性を活かした魅力あるまちづくり、3 つ目は合理的・効率的な行政運営を進めることがあった。
- ・ 今回の再編案についても、こうした経緯を踏まえ、7 つの区は分割せず組み合わせ再編するという提案をしている。

(2) 合併後の行財政運営について

- ・ 合併時、上下水道部長として、12 市町村の上下水道の効率的な運営体制について検討した。
- ・ 組織をスリム化するため、上下水道管理者や部長等の役職者は最小限とし、サービスについては、市域全体の効率性を考え、拠点浜松、浜北、天竜、引佐の 4 つに集約した。現在はさらに効率化され、浜北と引佐を合わせ 3 つの拠点で運営している。
- ・ 道路分野でも、区境で分けるのではなく、本庁に土木部を置き、現場の管理は南、北、東・浜北、天竜の 4 事務所で行い、合計 5 拠点で運営している。
- ・ このように、区と行政サービスを提供するエリアは、基本的に関係ない。地域社会の組織単位は自治会や小中学校区であり、顔の見えるエリアである。旧浜松市の職員数は 4,200 人で、合併により 6,500 人と急増し、一時余剰人員を抱えることになり、退職不補充や配置換えにより人員整理を進めるとともに、施設にしても同様であり、余剰・不要施設の早期処分・売却・転用を進める必要があった。
- ・ 合併で肥満体となった体形を健康体に戻すため、定員適正化計画、公共施設管理計画、中期財政計画といった 3 つの計画によって全市的に取り組み、10 年かけてヒト・モノ・カネ（借金）を減らし、健康体になった。

(3) これからの浜松のまちづくりについて

- ・ ようやく健康体となり、行政体としての体力もついてきた。現在、これからの浜松のまちづくりを考える大きな転換期に差しかかっている。新しい知恵を使って進める時期に来た。
- ・ これまでの努力によって必要な公共投資をしていくための財源を確保してきたが、その財源を上回る投資が今後必要になると見込まれる。
- ・ 真の行政改革のために区の再編によって財源を確保し、新しい浜松市を作っていく時期だと認識している。

- ・新しい浜松としてのまちづくりには、浜北副都心構想も重要な要素の一つであり、再編案においても南北を2区に分ける案を提案している。
- ・少子高齢化や人口減少が今以上に進むことは事実である。これらの環境変化に備えた対策に今から取り組み、区の再編をすることでさらに市民が暮らしやすい環境やにぎわいのあるまちづくりができると認識している。

3 質疑応答

(1) 中区

発言者①

- ・人口が減って、収入がどうなるのかということが示されていない。税収が、今後10、20、30年後にそれぞれ何%減ることになるのか教えてほしい。
- ・詳細な人口予測もできるはずである。5人に2人が高齢者になることも影響する。グローバル化によって、浜松市の輸送用機器製造業は相当減っている。それらを見込んで収入を見通すべきである。

鈴木副市長

- ・シミュレーションの結果を改めてお伝えする。
- ・グローバル化によって生産拠点を消費エリアに近い場所に移転している状況である。税収にも直接的に影響があると認識している。

発言者①

- ・区の再編について、私は即やらなければならないという意見である。人口が減っても地域はそのまま残っている。むしろ細かい組織体制に向かっていくと考えている。
- ・現行7区はバランスが取れていると思っている。区役所がなくなる地域については、行政センターに区振興課の機能を残すよう配慮してほしい。要望である。

鈴木副市長

- ・行政組織の単位と地域社会の単位は別である。
- ・市が自治会に頼り過ぎていた部分について、今後どのような体制、内容で進めていくか改めて協議させていただくことを予定している。
- ・龍山森林文化会館の管理運営委託は、うまく機能していると聞いている。地元の方が、地域密着で地元の状況をよく理解した上で、生涯学習業務を展開していただいている。
- ・和地協働センターでも先行的に委託を実施している。地域の皆様に協働センターの管理運営や事業実施のお手伝いをしていただきながら、その費用を市が交付することで、互いに納得して安定した事業運営を進めていく仕組みが協働センターにあって然るべきだと考えている。

発言者②

- ・第1種協働センターは、地方自治法第252条第20項の出張所に該当するのか。

山下市民部長

- ・ 第 1 種協働センターは地方自治法で規定する出張所ではなく、市独自の施設である。出張所はエリア設定しなければならないが、協働センターはエリアの想定はしているが設定はしていない。

発言者③

- ・ 説明資料 37 ページにおける、「ご迷惑をおかけする可能性がある」とはどのようなことか。

山下市民部長

- ・ これまで区役所で受け付けていた要望申請等の受付が、再編によって変更になった場合、別の場所へ足を延ばしていただく可能性があるということを示している。

鈴木副市長

- ・ これまで要望書は区長に提出することがほとんどだったが、区長が行政センター、協働センターまで出向けば良いと思っている。

発言者①

- ・ ここ 2、3 年、協働センター職員が、地域に積極的に出向いているという印象を受ける。自治会の会合にも顔を出し、市の施策を紹介してくれている。
- ・ コミュニティは校区の単位と一緒にしてしまうとなかなか難しい。今後に向けて一緒に考えてもらいたい。

鈴木副市長

- ・ これからは地域の拠点として協働センターの充実が必要だと思っている。状況に応じて数の増加も検討の余地があると思っている。

発言者①

- ・ 中区については、区の再編によって問題はないと思っている。現状でもサービスは低下していないし、困ることもない。

発言者④

- ・ 中部協働センターでは、協働センターのことを地域住民が良く理解していない。
- ・ 昨年 10 月に立ち上げた生活支援体制づくり協議会について、地域包括支援センターが抱えている問題として、お金がない、場所がない、移動手段がないということがある。それらを踏まえ、市も手を差し伸べてもらいたい。

鈴木副市長

- ・ ご意見として受け止めさせていただく。

発言者⑤

- ・ 高丘地区では放課後児童会の定員が満員で、教育委員会に相談しても解決していない。働きやすい、住みやすい環境を考えていかないといけない。

鈴木副市長

- ・ 放課後児童会は全市的な課題である。ご意見を持ち帰らせていただく。

発言者⑥

- ・ 区の再編は早くやるべきである。
- ・ 区の再編だけで環境変化に対応できるのか。できないのであれば、今からでも新しいことに取り組むべきだが、区の再編後に何をすべきなのかが見えてこない。

鈴木副市長

- ・ 区の再編だけで、という印象を持たれるかもしれない。行政は限られた財源をいかに有効活用するかが大事である。
- ・ 人口減少が進み、税収が減れば、組織の見直しや学校の統廃合、コンパクトシティの取組を進めていくことになるかもしれない。

発言者⑦

- ・ 最終的には、我々の意見がどのように扱われるのかが見えてこない。

鈴木副市長

- ・ 議員の方も、地元の要望を踏まえて再編案を考えてもらっていると思う。市として、議員として、地域としての考えをまとめる時期である。
- ・ 特別委員会の中で現状妥当と思われる案をまとめてもらいたいと思っている。その案をパブリックコメントに出し、意見を集約し、再編の有無が決まった場合は、条例改正の手続きを進めていく。

発言者②

- ・ この2年間、市と議会が時間を割いて議論してきたことは理解している。市には、もう少しはっきりと「この再編案で行く」ということを示してもらいたかった。
- ・ 新聞報道等を見ると、地元主義で市全体のことを考えていない人が多い。個人的には、天竜区を1つ、中、西、南区を1つ、残り1つの区とする3区が良いと思っている。
- ・ ここまで議論してきた以上、再編すべきである。細部は今後考えていけばよい。5区案は自分たちの主張ばかりで、市の再構築ができない。

発言者①

- ・ 区再編の狙いは、市民の安心・安全を継続していくことができる市を作っていくこと。人口減少が顕在化する中、再編は即やるべきである。やるのが遅いくらいである。
- ・ 浜松市は非常に住みやすく、健康寿命も日本一である。生活する上での不安がなく、居心地が良い。これは非常に危険な状況であるので、ゆでガエルにならないようにしてもらいたい。
- ・ 市が早く結論を出し、「この案で進めて行く」と示してもらえれば、自治会は

柔軟に対応していく。市の行政マンのモチベーションを下げないような指導をしてもらいたい。

発言者⑧

- ・ 3区に再編した場合、選挙制度はどうなるのか。

鈴木副市長

- ・ 区の単位で選挙する。平成31年4月の統一地方選挙は現在の区割りで行う。選挙区ごとの議員数は議会で審議することである。

発言者⑨

- ・ 自治会は行政の重要なパートナーと書いてあるが、怖いところである。聞こえは良いが、地域包括の協議体のように福祉業務が自治会に下ろされてくるのではないか。自治会の負担が増えないようにご検討いただきたい。

鈴木副市長

- ・ 市が頼り過ぎている部分は反省している。自治会に多くの負担がかかっていることは承知している。お願いすべきもの、やめるべきものを整理し、業務の代行に必要な資金を含め、自治会への依頼業務について、今年度中に協議させていただく。

(2) 東区

発言者①

- ・ 東区役所を協働センター以上の施設として残してほしい。

鈴木副市長

- ・ 区役所には連合会の拠点を置き、防災等も区役所を拠点としている。それならば、当面この建物を残し、皆様に活動いただき、サービスも継続して職員を配置する。

発言者①

- ・ 議会で否決されたら全て駄目なのか。

鈴木副市長

- ・ これらについては来月以降の特別委員会で話し合われる。議会の賛同を得られなければ条例改正はできない。

発言者②

- ・ せっかく10年間かけてスリム化してきたところで、なぜまた手を加えるのか。

鈴木副市長

- ・ 行政内部で努力できることは常に行い、浮いた財源は市民のために活用したい。

発言者③

- ・ 体力があるうちに再編という趣旨は分かり、区の再編も了とすべきと考える

が、一方で、公民館から協働センターに変更された際にはサービス充実という話であったが、変わったという実感が無い。コミュニティ担当が何をしているのか、実感として分からない。

- ・ 体力があるうちに今後 50 年、100 年を見据えた長期の取組を進めてほしい。

鈴木副市長

- ・ 協働センターは拠点として重要である。今後 10 年 20 年を見て、再任用でなく正規職員化することを考えている。また、自分で決断できるもう少し権限のある職員を配置する必要もあるかもしれない。また、事業予算を用意することも必要かもしれない。

発言者④

- ・ 10 年が経つ中で情勢の変化は大きい。力がある時に案を作らないと、急激な右肩下がりの時代になったら泥縄式になりろくな案が出ないことになる。
- ・ 早く結論を出してほしい。1 年、2 年経っても決まるものではない。議会には早く決めてほしい。市民も不信感を持っている。5 年、10 年先のことを正確に読める人はいない。行政の停滞は皆に不便をかけることになる。

鈴木副市長

- ・ 皆様から伺ったご意見は、議会にしっかり報告したい。合併等の検証について、2 年間議論をしてきた。こうした場の意見を踏まえ、結果結論を出していただくことを期待したい。
- ・ まとめていく時期になっている。状況を一番良く分かっている市と議会に結論を出す責任がある。現実妥当な案を両者でまとめて、パブリックコメントで市民の皆様へ問う。

発言者②

- ・ 区が無くても市民が困らないよう、行政サービスが低下しないようにしてほしい。

発言者⑤

- ・ これまでの意見聴取は、高齢者の意見が中心なのではないか。これからの浜松を担う若い人から意見は聞いているのか。若い人は賛成が多いのではないかと思う。

内藤企画調整部長

- ・ 今回は、地域の実情を知る自治会長等から聴くこととした。また、議会から要請があり、具体的支障のある福祉関係団体から、意見を聴いている。

発言者③

- ・ 行政も議会も、色々な人のことを、党派を超えて考えているはずであり、両者にお任せする。議員を信用している。

発言者⑤

- ・ サービス低下とは、具体的に何を心配しているのか。

発言者③

- ・ 漠然としている。

鈴木副市長

- ・ 今まで施設で提供してきたものは変わらない。地域特性を守るということについては我々も議員も同じ考えである。
- ・ 東区役所と南区役所の扱いについて最初の提案は間違いだった。改めて提案させていただいた。

発言者⑥

- ・ 早急に合区をしていただきたい。

発言者③

- ・ 防災は地域によって違う。和田では地域独自で防災対策を考えている。行政も地域に応じた計画を考えてほしい。

(3) 西区

発言者①

- ・ 災害時要支援者のリスト作成や、地域包括支援センターの協議体への参加等、自治会の仕事は増えている。
- ・ 区の再編により自治会の仕事が増えるのではないかという心配がある。

鈴木副市長

- ・ 色々な形での行政事務のお手伝いをしていただく部分が増えていることは、私も分かっている。
- ・ 市長からも自治会業務の見直しというテーマ、課題を来年度に向けていただいている。現状をしっかりと把握したうえで、別の機会に皆様との話し合いをさせていただく。

発言者①

- ・ パブリックコメントを実施して、市でまとめて議会に諮り、皆さんに周知する形に持っていくと思うが、市議会で反対となった場合どうなるのか。

鈴木副市長

- ・ 色々な内容を総合的に判断、協議をして、8 月中に結論を出していくような取りまとめを期待している。
- ・ できるだけ議員の皆様と協議を踏まえて、スケジュールどおりの実施をしてみたい。

発言者②

- ・ 西区の場合、行政センターが残るので、行政サービスもこれまでとほとんど変わらないと安心している。
- ・ 西区は、特徴ある様々な活動を行ってきている。再編後も今までと同じよう

にできるのか。

- ・自治会の組織は7区の組織があるが、今までと同じような形で活動ができていくのか心配である。
- ・浜松はものづくりのまちで、人口が減っていくと、工場そのものの稼働が難しくなる。人口の減少をある程度食い止める対策を、浜松として考えていかなければならないのではないか。

鈴木副市長

- ・合併したからと言って、地域の特性を無にしたり、無視したりしない。地域の歴史や伝統、風土はそのまま残る。
- ・魅力あるまちづくりをするためには、色々な工夫や、場合によってはお金がかかることもある。こういった支援については、これまで以上に行っていく。
- ・区役所という建物は廃止閉鎖することはなく、行政センターとして位置付けて、自治会の活動を支障なく続けていける環境をつくっていく。
- ・コンパクトなまちづくりを心がける中で、にぎわいと活性化をしっかりと確保できるような体制づくりをするとともに、生産年齢人口を確保するような工夫をしていく必要があると思っている。

発言者③

- ・東区や南区の区役所を行政センターとして残していくというのは、いつまで続くのか。
- ・雄踏には旧西区役所の行政センターが残るが、協働センターとサービスセンターが併設されていない。
- ・現在の協働センターは、それぞれの地区の中間に位置しているため、サービスセンターを併設していただきたい。

鈴木副市長

- ・いつまでということはこの場では申し上げられないが、サービスの提供ができるような新しい体制、制度、仕組みができるまでの間、今までどおりに残すことを考えている。
- ・雄踏のことについては個別具体的な話であり、別の機会にお話しさせて欲しい。

発言者④

- ・人口減少を前提とした、これからの浜松市のグランドデザインというところが見えてこない。
- ・自治会の関係であるが、昔は地元の役場におんぶに抱っこだった。
- ・自治会が継続していくことについて、切実な問題として、次に引き渡していく制度的なところも心配している。
- ・もう少し声を聴いていただいて、一方通行ではなく双方向で掘り下げて、浜松市が将来どうあるべきか、ということ、地域も含めて皆で共有できれば良いと思っている。

鈴木副市長

- ・自治会の加入率が高く、組織として非常に上手く機能しているので、行政運営のお手伝いをしていただいていることもあると思う。
- ・行政側が、あまりにも皆様方に頼り過ぎてしまった、ということもあって、余計に自治会のあり方や自治体との関係性を今一度構築しなければならないと思っている。

(4) 南区

発言者①

- ・南・東区役所は、当面残るということだが、他の区と同じようにしっかりと行政センターとして残していただきたい。

鈴木副市長

- ・別の制度やシステムにより、市民サービスが提供できるようになるまでは、継続して区役所庁舎でサービスを提供していく。

発言者②

- ・区の再編の焦点は、削減効果額だと考えており、削減効果額が10億円であれば、10年経てば100億円になる。国道1号線に係る経費にも使うことができる。

発言者③

- ・サービスの低下が具体的にどのようなことかもっと明らかにすべきである。
- ・問題は、行政の機能をどこに置くかということだけになると思う。
- ・インフラについては、関心が高く、国道1号線については、高架化等目に見える形で、混雑解消に向けて経費削減額が活用できれば良い。

発言者④

- ・浜松が元気なうちにスリム化を図ることは良いことであり、もっと良いイメージを発信していただきたい。
- ・コンビニでもできる市民サービスもあるが、知らない人も多い。

発言者⑤

- ・南区全体として、交通の問題は優先的に取り組んでいただきたい。
- ・区の再編で合理化ができるのであれば、交通事業にも取り組んでいただきたい。

鈴木副市長

- ・地域要望でいうと江之島水泳場の跡地の話もあるが、施設が残されていたため、マリンスポーツ・観光振興等地域振興に利活用していける。
- ・これからは、攻めの姿勢で、新しい事業にも取り組んでいきたい。

発言者⑥

- ・ 来年は統一地方選が予定されているが、期日前や不在者投票はどうか。
- ・ 選挙の範囲、議員定数はどうか。

鈴木副市長

- ・ 再編により、選挙区は変わるが、議員定数は議会で決めるものである。
- ・ どのような区の数になっても、投票を行う人が不便にならないよう、期日前や不在者投票のやり方を考えていかなければいけない。

発言者⑦

- ・ 西日本の豪雨災害が起こったが、家の中で亡くなった人も多いと聞く。
- ・ 南区では、馬込川が本当に大丈夫なのかという心配があり、区役所の機能を当面継続するということであるが、発生しうる災害を想定して進めていただきたい。

鈴木副市長

- ・ 区役所に当面残す機能は、防災機能も含んでいる。

発言者⑧

- ・ 飯田地区にある、協働センターは中区管轄で、保健福祉センターは東区管轄であり、中区に合区されれば、すべて迅速になる。
- ・ 国道1号線の高架化は、早く取り組んでいただきたい。
- ・ 天竜川駅周辺の整備についても迅速に対応していただきたい。

発言者⑨

- ・ 市の職員が全体を考え、改革に取り組んでいただいているのはありがたい。
- ・ コストカットの面で、区の再編は賛成であるが、市民サービスの低下を避けたい。よろしくお願いいたします。

発言者⑩

- ・ 市の目指すスリム化を目指し、衣の付け替えだけにならないようお願いしたい。
- ・ 課題として考えるものは、旧浜松市から天竜区水窪まで市全体を一体的に考えるべきであり、区の再編により、旧市町村単位で区を独立させることはいかがなものか。

鈴木副市長

- ・ こうした場を重ねて、より良い浜松をつくっていかねばならないと考える。
- ・ これまで10年間は内向きの話が多かったが、子どもたちにしっかりと受け継いでいけるような環境づくりに、皆様と力を合わせて取り組んでいきたい。

(5) 北区

発言者①

- ・ 区の再編がやらまいか人口ビジョンに対してどのような関わりを持つのか。
- ・ 区の再編ありきで進んでいるのではないか。効果額 10 億円は人口減少やインフラ更新等の問題とはレベルも違い、市の予算の 1%にも満たず、予算の精度を上げれば 10 億円くらい捻出できるのではないか。
- ・ 現段階で自治会や市民の意見が反対寄りであることは、行政の予想と違って困っていないか。意見をどう集約していくかは行政の手腕であるが、その前段階で浮足立っていないか。

鈴木副市長

- ・ これまで本市では総合計画や個別の計画を作った上で、課題やニーズに対しては予算編成をする中で対応してきている。しかし、全市に渡る新しいグラウンドデザインを描いた上で、個別の計画を作っていくことが理想であるため、合区を機会に改めてグラウンドデザインという考えである。
- ・ 2 年前から合区の是非の評価・検証をしている中で、12 市町村が様々な部分で一体化されていない部分があるという意見に対し、行政運営を一体化する手段の一つとして区の再編を考えた。

発言者②

- ・ 自治会長等と違い、一般の住民がどの程度理解しているか疑問である。
- ・ 区の協議会だよりも具体的な意見交換の内容や区の再編の必要性を知らせるべきでないか。一般市民は区の再編のことが分からずパブリックコメントでも意見が出せないのではないか。

鈴木副市長

- ・ 合併の際は、行政の内容と運営体制が分かる市当局と市議会で議論をして、まとめた内容を市民にアナウンスしている。
- ・ 今回の区の再編では、基本的に直接の市民に対するサービスに影響は出ないが、市民へのアナウンスが不足していることは認識しているため、今後、更なる情報提供を加えていきたい。

発言者③

- ・ 今回の再編の根拠法令はどこから来ているのか。
- ・ 他市の自治体の事例をどの程度まで検証しているのか教えていただきたい。
- ・ 合併により行政サービスの提供のスピードに差が出ていると感じている。スピード感のあるサービス提供に向けた職員教育も考えていただきたい。

鈴木副市長

- ・ 地方自治法で区の数に 2 つ以上と決まっている。先行の政令市の区割りの規模は 20 から 30 万人程度が多く、浜松市も先行事例を見て 7 区にしたと認識している。
- ・ 今回、地域性や地形、人口規模等を勘案する中で、南北の道路や鉄道もあるため、2 つの拠点で行政組織を運営していくことを基本として合区の提案を

した。

- ・ 今後はより多くのサービスをより早く、機動的に行わなければいけない。合区について、皆様の意見をいただいて議論を進め、決定していきたいと考えている。

発言者④

- ・ 三方原地区は合併の際には「なぜ中区ではないのか」と大変怒られた。今回「旧浜松市は一つになる」という報道を受け、地元から旧浜松市に戻して欲しいという要望がとても多い。
- ・ 北星中学校が北区と中区にまたがっているが、一つにしていきたい。

鈴木副市長

- ・ 学区のことは承知している。2区案では北区を中区と一緒にする案と天竜区、浜北区と一緒にする案と提案しており、今回の意見も参考にさせていただきたい。

発言者⑤

- ・ 合併の時には地域協議会を設けて地域の意見の集約をし、その後、区の協議会に集約されたが、地域の特性を踏まえた意見がかなり出ていると思われる。
- ・ 12市町村が合併して広範囲となり、地域で温度差がある中で一緒にしていくということは無理があるのではないか。

鈴木副市長

- ・ 地域の実情を踏まえた事業やまちづくりは大事である。今回のような意見を多く伺っているので、可能であれば地域委員会を改めて設置して、皆様の意向を反映させる組織を作っていきたい。

発言者⑥

- ・ 細江の住民として旧浜松市と一緒にするのは違和感がある。南北に交通網があっても、通勤時間帯に細江から浜松までバスで一時間半ほどかかり不便である。
- ・ 二年前から合区の議論を進めたということであるが、早すぎるのではないか。13年前に合併してそれから10年程度で議論をしていい方向に向かえるのか。
- ・ 静岡市と浜松市で状況は違う。静岡市は清水市と対等合併だが、浜松市は地域格差がある市町村の合併である。状況は違うのでその点は考慮いただきたい。

鈴木副市長

- ・ 交通については意見として受け止める。
- ・ 行政組織の単位と地域社会組織の単位は違う。地域特性を尊重し、地域の諸事情やご意見を踏まえた対応を前提に、自治体としては行政サービスの内容や質は同じであるべきで、区役所が行政センターになったとしても、市民サービスは維持していく。

発言者⑦

- ・ 浜北区はなぜ常に独立的なものに位置付けられているのか。浜北区が副都心として整備していくのであれば周辺部である都田や新都田地区も関わってくる。
- ・ 北区はバス路線も道路も整備が不十分である。生活していく上で最重要な部分が後回しになって、区の再編の議論が独り歩きしている。道路や交通を重点に考えていく上で、区の再編をしていただきたい。

鈴木副市長

- ・ 南北で2区に分けて、既存の道路網や鉄道網を利活用するということを伝えたのであり、都田地域の道路網が整備されて交通の利便性が十分とは思っていない。今後もより一層取り組んでいく必要があると認識している。

発言者⑧

- ・ 60代から70代の世代は合区に対し感情的なものがあるかもしれないが、若い世代はないと思うため、将来を見据え再編を進めていただきたいが、説明の内容と現実でかけ離れたことがあるので、調整をしていただきたい。
- ・ 引佐町は中山間地を抱えており、中山間地域の方が取り残されないか不安である。
- ・ 「ランドデザインが描けない」という話があったが、ランドデザインを描いた上で、市政の方向性を強く示していただきたいかった。

鈴木副市長

- ・ 誤解を招く表現であったが、現在も総合計画を基に個別の事業計画がある。ただし、今までの延長線上で計画に修正を加えながら進める形になりがちであるため、今回を機にゼロから新しい市域全体を見渡す中でランドデザインを作ることが望ましいと思っている。

発言者⑨

- ・ 三方原地区が旧引佐郡3町と一緒にになった際、旧浜松市の自治会連合会の体制と、旧引佐郡3町の体制がかなり違うことに驚いたが、この10年で旧引佐郡3町と折り合いをつけて仲良くやってきたところ、また別々になるとせっかく作った友情の助け合いがなくなってしまう。
- ・ 浜北区は特別感が強く北区とは合わない。浜北区とは合併したくないと三方原地区は思っている。
- ・ 北区は、旧浜松市と合区しても今のままだもいいので、地域を発展させていただきたい。引佐には中山間地域もあるため、市街地ばかりでなく同等のサービスをしていただきたい。

鈴木副市長

- ・ ご意見として受け止める。

発言者⑩

- ・ 100名減らして10億円削減ということではスケールメリットが小さい。職員

を効率的に使うという手法が再編以外にあるのではないか。福祉の職員を集約することは組織の問題で解決できるのではないか。

- ・ 職員が仕事に取り組む姿勢が市民サービスに大きく影響する。北区の職員は自治会の気持ちに沿って前向きに取り組んでいただいております、改めて御礼を言いたい。

鈴木副市長

- ・ いただいた意見は議事録にしっかり残して議会での協議の材料にさせていただく。

(6) 浜北区

発言者①

- ・ 政令指定都市の中で、人口 10 万人当たりの交通事故件数は 9 年連続でワースト 1 である中で、7 区をいきなり 2 区もしくは 3 区にすることは乱暴だと思う。
- ・ 浜松市は財界の一部企業の社員でもなければ、従業員でもない。リストラという企業的発想のもとに区を再編し、サービスが低下するようでは本末転倒である。
- ・ 意見を聴く会でも慎重意見が出ている。相対的に見ると、明確な賛成の意見も反対の意見も少ないと感じている。慎重意見をどのように反映してもらえるのか期待している。

発言者②

- ・ 本日の配付資料や新聞報道等を読むと、市の説明と市民の意見が平行線で推移しており、かみ合う部分を感じられない。参加者の理解を得られていない気がする。
- ・ 合併当時、クラスター型都市を目指したように、小異を捨てて大同に就くという機運、精神的なインパクトを与えてもらえる機運があった。今回は財政的なことや組織のスリム化等データ的なことばかりで、市民の気持ちに訴えかける、工夫した PR をしてほしい。
- ・ A3 の資料（ライフステージ別取扱手続き）は大変良く研究されていて、説得力のある良い資料だと感じた。
- ・ 副市長の説明で、合併後 10 年経ち、新たな行政運営を展開していく必要が生じ、そこから新たな展望が開けていくということが分かった。今後の市の取組を応援していきたい。

発言者③

- ・ 副市長の地域への愛着が伝わってきた。
- ・ 10 億円削減と区再編の関係が腑に落ちない。12 市町村の特徴を活かし、現行 7 区になったにも関わらず、なぜ今区の再編をするのか。
- ・ 現行の区割りの中で 10 億円をどのように削減していくかが重要である。単なる区割りによって 10 億円を削減するだけの話のように聞こえるが、実際は地

域住民の心を傷つけている部分がある。10 億円削減の切り口を変えて考えてもらいたい。

- ・なぜ今区割りをするのかについて、市民目線で考えてほしい。

発言者④

- ・市民に区の再編のことが浸透していない。もう少し時間をかけて議論をすべき。区の再編の話が唐突に出てきた感じが拭えない。
- ・地域の歴史や文化の尊重と、組織の一元化は相反するものである。歴史や文化は地域の細かいところまで根付いたものであり、組織の一元化はグローバルな視点を持つものである。地域に固有の文化がありながら、行政組織がグローバル化されることに異議を持っている。
- ・12 市町村が合併によって 7 区になり、区の再編によってさらに区の数を変えることになるのであれば、もう少し市民に浸透させる時間がほしかった。市民、区民の気持ちが固まらない中で、区の再編の説明に慣れてしまうことは良くないことである。
- ・市民の気持ちと市のあり方がうまくかみ合うようにしてほしい。
- ・副市長からもグランドデザインについての話があったが、区の再編によって市民生活がもっと良くなるということを強調しないと、市民の同意は得られない。今の生活を守りたいという保守的な人が多い中で、革新的な取組を進めていくのであれば、メリットについての説明を丁寧にしていくことが肝要だと思う。

発言者⑤

- ・合併当時、北脇前市長の考えには驚いた。伊豆半島より大きな市域の 7 割が中山間地域になり、行政効率が上がりにくい上、行政コストがかかりすぎる。そのような合併をするのかと思った。その考えに当時の浜北市長は賛同しないと思っていたが、まさか賛同してしまうとは思ってもいなかった。
- ・副市長が話すように、今後、ヒト・モノ・カネが必要になることは十分理解している。ヒト・モノ・カネを絞って健康体になったというこれまでの市の努力には敬意を表する。
- ・浜北区では、区の再編そのものに反対しているのではなく、もう少し慎重に進めてほしいという意見が多かった。旧浜北市はそのまま浜北区になっている。副都心だと持ち上げてもらっても、「大波に乗って行こうか」ということにはならないし、かなり考えないといけないことである。もう少しじっくりと取り組んでももらいたい。
- ・浜北区は、昭和 31 年の浜北町制施行以来、半田町以外は当時と同じ骨格をしている。副都心として頑張ってもらいたい、他区と合区して頑張ってもらいたいということであれば、住民が納得する説明をしてほしい。個人的な意見として申し上げる。

鈴木副市長

- ・ 皆様のご意見を伺って、浜北区独自の歴史や経緯があり、それを継続したいという思いがあることが分かった。それを踏まえ、議会において議論していく。

(7)天竜区

発言者①

- ・ 佐久間町野田地域では ISDN 回線しかなく、インターネットでパブコメに参加することができない。意見を尊重してもらえるのか疑問であり、不安である。
- ・ 中山間地域の人口増加策についてどのように考えているか。コンパクトシティの考え方では、中山間地域から街へ人が流れ、より過疎化が進むのではないか。

鈴木副市長

- ・ インターネット回線については課題として認識し、検討している。また、災害時の情報伝達システムについて、今年中に具体的な内容をお知らせする。
- ・ 道路や水道、情報網の整備、日用品の調達等、コストが掛かろうとそこに生活する市民がいるなら、何らかの方法で提供することが行政の務めである。
- ・ コンパクトシティについて、公共インフラや学校のある地域にできるだけ住んでもらう声掛けは必要であるが、個人の生活圏を守る方法で色々な内容、形を考える必要がある。

発言者②

- ・ 再編は時期尚早である。理由は再編ありきだから。この 10 年間、浜松市は何をしてきたのか。行政運営がうまくいかなかったことのこじ付けではないか。
- ・ 合併以降、浜松市は多くの面で衰退している。市長や幹部職員が 10 年間の総括を調査し、市の経営の功罪を市民に明らかにしなければ、責任の所在や原因が分からない。
- ・ 林業は裾野が広く、国も成長産業として定めており、今後十分に成長の可能性がある。天竜区を 1 つの区として独自に扱い、区のランドデザインをつくるべきである。

鈴木副市長

- ・ ご指摘のとおり、天竜区を含めた全市的なランドデザインを描くべきだと考えている。
- ・ 林業振興は産業、環境、観光等が連携し、大々的に取り組むべきだと認識している。
- ・ 合併後の検証については、平成 28 年 2 月に区再編の本格的な議論が始まってすぐに検証をお示しし、十分な点も不十分な点もあったととらえている。

発言者③

- ・ 本日の目的は、市の案を理解してもらうことか、市民の考えを今後反映することか。

- ・ 区の数減らすことは当然考えるべきことであるが、歳出・人員削減ありきなものはなぜか。こういった市をつくりたい、その中で適正規模配置をすると、結果として削減できるといった説明をしてほしい。
- ・ 協働センターを充実するとのことだが、区や区協議会の位置付けが下がってしまうのではないかと心配している。
- ・ 天竜区では小規模飲料水供給施設を活用している地域もある。蛇口からきれいな水が出るのが当たり前の地域とそうではない地域が混在している中で、一つの制度のみで運用することは無理がある。

鈴木副市長

- ・ 本日の目的は、いただいたご意見や要望を基に議会と協議していくことにある。
- ・ 行政組織上の区の単位と地域社会の単位は異なる。自治会や小中学校区が極めて重要な地域社会の組織の単位である。
- ・ 中山間地域の特性については認識している。全ての地域へ水道管を設置することは難しいが、市としてもできる限り支援していく。
- ・ 同様に、NPO 団体や地域コミュニティも、活動を支援していく。その一つとして、地域の自主的な活動を守り、にぎわいづくりに役立てるため、龍山森林文化会館の運営をNPOに委託している。

発言者③

- ・ すべて行政任せではいけない。協働センターに予算と権限を与えてほしい。

鈴木副市長

- ・ 協働センター職員を正規化し、地域の核として、重点的に整備することとしている。

発言者④

- ・ 天竜区が単独で残らないのではないかと心配している。天竜という名前に愛着と誇りがあり、浜北区と合区すると名前が消えてしまうのではないか。
- ・ 自分でできることは自分で、どうしてもできないことは市でという意向が強まっているように感じるが、現在も市の手助けにより進めていることがたくさんある。

鈴木副市長

- ・ 今まで守ってきた愛着のある地域が壊されるのではないかと、天竜の名前やまとまり感を守りたいというご意見は、浜北区でも同様にいただいており、ご意見を受け止めて議会の中で協議してまいりたい。
- ・ 地域固有の歴史や文化は手間暇、お金をかけても守らなければならない。経済活動はグローバル化しているが、それとは別に地域のにぎわいづくりが必要であり、その核となるのは自治会であると考えている。

発言者⑤

- ・ 春野地区の願いをお伝えする。再編するには、距離のハンディキャップを乗

り越えなければならない。区役所が遠くなっても、防災や福祉のきめ細かな対応ができるのか。区域が広がっても、職員が地域の実情を把握できるのか。対応が遅くなったり、軽く扱われたり、声が無視されたりするのではないか。

- ・ 権限をもった区役所が近くにあることが重要である。天竜区は一体感があり、他区との合区ではなく、天竜区として残してほしい。

鈴木副市長

- ・ 要望として受け止めた。

発言者⑥

- ・ 旧天竜市の職員として合併協議会に参加し、他区と比べ人口が少ない天竜地域を一つの区としてもらった。この経緯を尊重してほしい。天竜の名前がなくなったらどうなるか市民は知っているのか。中山間地域の振興は浜北区役所でできるのか。協働センターは単なる取り次ぎで、予算や権限は与えられないのか。具体的なことを示してほしい。
- ・ 現在天竜区選出の市議が3人いるが、合区したら、1人か0人になってしまう。
- ・ 様々な課題がある中で、平成32年1月から新体制のスタートができるのか。

鈴木副市長

- ・ 議会で2年余り議論を続けており、その中で同様のご意見もいただいている。
- ・ 区の名前については、再編の有無が決まってから検討すべきだと考える。
- ・ 例えば林業振興は区役所でなくても行政センターさえあれば機能は確保でき、それが本庁となったとしても同様である。
- ・ 選挙区が変わるが、議員定数は議会で決めるものである。

発言者⑦

- ・ 佐久間小の1年生は今年6人、昨年1人であり、佐久間分校の廃校は間近に迫っている。小中学校も廃校となる可能性がある。
- ・ 区再編ありきで決まったことのように感じるが、天竜区の現実をわきまえ、北遠や天竜区を活性化するために何をすべきか、市民と膝を詰めた話し合いの場が必要である。

鈴木副市長

- ・ ご意見として受け止める。決して再編ありきで進めているのではない。

発言者⑧

- ・ 協働センターに権限を与えることで、自治会の動きがよくなると思う。

鈴木副市長

- ・ 協働センターの充実については、状況等を把握し、手法を検討する。

発言者③

- ・ 区や区協議会の位置付けはどのようになるか。協働センターに予算や権限が

なければ地域振興に十分に対応できない。現在でも区役所の予算や権限が削られている。

鈴木副市長

- ・ 合併以降、健康体に戻すための内向けの取組が多かったが、今後は夢や未来のある浜松にするための新たなグランドデザインが必要である。
- ・ コミュニティを核とし、ヒト・モノ・カネの再配分をすることで、より充実した地域振興ができると考えている。

(8) 市民活動団体等（北区まちづくり協議会）

発言者①

- ・ 理解するのが大変であるため、データ等を使って市民にわかりやすく再編の根拠を住民に説明する必要がある。
- ・ 合併時は首長や議長や商工会、自治会連合会は熱い想いがあったが、今はないのではないか、関心がないのではないかという市民の意見がある。
- ・ 合併時はぶどうの房に例え、7区で魅力あるまちづくりをしていこうとしていたが、2区にしたときにできるのか。北区はこれまで一体感の醸成を図ってまちづくりを行ってきたが合区してもできるのか。
- ・ 行政センターになった場合に今までと変わらないサービスが提供されるのか。コストだけでなく住民サービスは変わらないことをきちんと説明して欲しい。
- ・ 合併時に7区にしたメンバーに当時の考えを聞いたほうがいいのではないか。

鈴木副市長

- ・ 行政サービスのための組織運営体制と地域固有のコミュニティを守っていくことは別の問題である。
- ・ 地域のコミュニティ支援には今の協働センターの体制は不十分な部分もあるため、再任用職員を正規職員化していくことにあわせて、運営を地域に任せ等、権限や財源を増やす取組も進めており、両面で協働センターの充実強化を図っていきたい。
- ・ 区役所から行政センターになってもサービスは低下しない上、その内容も変わらない。
- ・ 区役所がなくなることに對するイメージダウンはあると思うが、地域の皆様に丁寧に説明をしていきたい。

発言者②

- ・ 旧浜松市域の合区を前提とするとあるが、浜松北地域は旧浜松市域ではないのか。浜松北地域全体の意見として区を分割することがあってもいいのではないか。
- ・ 協働センターにおける地域づくりに携わる職員が少なく、現状では対応できる体制になっていない。1人増えただけで対応できるのか。

鈴木副市長

- ・ 現在の提案は現行区の合区を前提としているが、この問題は持ち帰る。
- ・ 協働センターの再任用職員の正規職員化だけではまちづくりの強化には不十

分であると考えため、協働センターで担う業務を増やす等、中長期的な課題として検討していきたい。

発言者③

- ・ 区再編の目的は、経費削減と市民サービスを後退させないことにあると思う。
- ・ 市長は今まで以上に市民サービスを充実させると言っているが、果たして実現できるのか。10億円の削減がいつまでに実現できるのか、市民サービスが変わらないのか、納得できる説明ではない。
- ・ 10億円の削減効果については、協働センターで35人を正規職員化すれば、7億7千万の削減効果になってしまう。これでなぜ10億円というのか疑問である。
- ・ 東・南区役所を残すのであれば、区役所売却による財政効果額も変わってくる。また、削減した人員を再配置するとなると、更に削減金額が減額となる。
- ・ ライフステージの資料では市民サービスは変わらないとなっているが、41ページの図は、東区では5万6千件の業務が中区役所に移行する業務となっており、新しい区役所でしかできない業務はたくさんある。
- ・ 東区で20万件を超える業務が今の協働センターに上乗せされて、協働センターは対応できるのか。

鈴木副市長

- ・ 10億円の効果額は東区役所と南区役所を廃止することを前提としており、東・南区役所庁舎を活用したことによる財政効果への影響については、特別委員会にてシミュレーションした金額を出していきたい。

山下市民部長

- ・ 41ページの表は、平成28年度の実績に基づいた試算である。平成28年度の体制において区が再編された場合に区で実施する全ての業務がどうなるかを示したものであり、区再編後に、西区役所庁舎でなるべく多くの業務をできるようにしていくことで、500件程度になると思われる。
- ・ その主なものは、区における財産管理、浄化槽設置に関する補助金申請、戸籍の認知届や分籍届である。
- ・ これに対し、ライフステージ別の資料は、41ページの件数のうち、各ライフステージにおいて必要となる一般的な手続きのみを抽出し示したものである。
- ・ 協働センターでの処理件数の増に対しては、窓口の職員を減らすことは基本的には考えていないため、東区役所の職員を回すことで対応する。

鈴木副市長

- ・ 施設を残せば5千万円の庁舎管理費の削減効果もなくなるが、10億円でこたわらずできる限りの経費削減をして効率的な運営を図っていきたい。

発言者③

- ・ どの業務が残り、どの業務が移るのか、具体的に提示してくれないと分からない。今回提示された回答もどれも抽象的な内容なので判断ができない。
- ・ 中区役所の人員が1.8倍に増加することになるが、スペースはあるのか。

川嶋総務部長

- ・ 本庁の職員数は変わらないが、区役所の職員数が増加することは間違いない。どのようにスペースを確保していくかは今後検討していく。

発言者④

- ・ 削減効果の 8 割が人件費であり、5 年間で完成するというが、その後の削減効果はどうなるのか。年間 10 億円の削減効果は毎年あるのか。
- ・ 削減効果が 10 億円と言っても、事務経費等で 5 億 4 千万円、さらに 1 億円以上の人件費が増加するとあるので、差し引き 4 億円となる。その整合性はどうか。

川嶋総務部長

- ・ 5 億円の投資は主にシステムの改修費用等であり、一時的なものであるため毎年必要なものではない。
- ・ 東区・南区でのサービスの提供に係る費用であるが、もともと市民サービスに係る職員は減じないので、職員をどこに配置するかの問題であり、削減効果はほとんど変わらず、管理職員の数名程度が増加するのみである。

発言者④

- ・ 本庁の職員の削減には触れていないが、本庁は区の再編には関係ないのか。
- ・ 区の再編は、民間の会社であれば組織の変更で済む問題である。再編前と後でサービス提供体制に全く変更がないが、変わらないことをするために無駄な時間を使う必要があるのか。
- ・ 削減額も 10 億円に満たず、10 年間でまとまったものをなぜ崩すのか。再度、正確な資料を出して説明をして欲しい。現在の計画は白紙撤回を求める。

川嶋総務部長

- ・ 本庁の職員についても、定員適正化計画で削減をしている上、平成 23 年 7 月には本庁の組織を大きく改革している。
- ・ 区の再編によって協働センターの業務がすべて変わるわけではない。維持するサービスは維持していく。

発言者⑤

- ・ 説明会を開催し、丁寧に説明をしてもらい市の考えがよくわかった。説明責任を果たすことが一番重要であり、理解を求める努力に敬意を表したい。
- ・ 副市長から言われたように地域特性をどうしていくかが重要である。
- ・ 将来のことを考え、再編を行っていくことを市民みんなが納得できるように責任をもって説明をしてほしい。
- ・ 今回の説明を聞くまでは反対であったが、大きなビジョンを持っているのであればしっかり説明していただきたい。

発言者⑥

- ・ まちづくり協議会は行政のできないことを地域の住民の要望を聞きながら北区は必死になって行ってきた。2 区になると都市化してしまうため、地域の

団体が生き残ることができるのか。今回の大改革は悪いことではないが、だれが一番つらくなるか考えてほしい。

- ・ 23 ページのデメリットについて、「負担が増える場合がある」とあるが、負担は増えることは確実である。天竜区、北区、浜北区の順に負担は増える。

発言者⑦

- ・ 地域の特性を生かしてそれぞれのぶどうの房で大きくなっていくという希望をもって政令市になったが、いまは地域が完全に壊れてしまっている。合区によって地域のコミュニティをもう一度生かせるような取組をしていただきたい。

鈴木副市長

- ・ 合区の話は、本来は行政組織の話なので、関係者である市当局や市議会で行政サービスの低下がないように相談して決めていくものであるが、区は条例で設置しているものなので、皆様に説明する中で慎重に進めている。
- ・ 今回の意見は議事録に残して議会と共有していく。

(9) 区協議会

発言者①

- ・ 合区に伴う不安をどのように解消していくか示されていないと納得できない。
- ・ 静岡市は、未だに旧清水市の主張が見受けられる。浜北や天竜も同じではないか。
- ・ 市長公約のもとに合区ありきで考えていないか。住民に対して十分な説明がなされてきたか今一度考えてほしい。

発言者②

- ・ 最初は合区に賛成ではなかったが、今は賛成している。
- ・ ゆでガエルにならないうちに取り組んでいく必要がある。
- ・ 立体駐車場や市長部局、マンション等が入居する 30 階建てのビルを松菱跡地に建てるくらい極端な考えで、区の再編も考えていかないと前に進まない。
- ・ 区役所がなくなったとしても、当面の間、行政センターとして残してもらえれば合区してもなんとかなる。60 万人規模となる浜松市を見据え、知恵を出し合って運用してほしい。

発言者③

- ・ 区だけでなく本庁でも、補職名の兼務によって職員を減らせれば、区再編をしなくても十分にやっていけるのではないか。
- ・ 合区で本当に 100 人もの職員が減るのか。机上の計算通りに進むのか。一般市民には、これまで区再編後の組織や職員についてどのように議論してきたのか分からない。
- ・ 市民の中には、「天竜区はどうなるのだろう」、「今までのサービスはどうなるのだろう」、「失うものはないのか」との意見がある。こうしたことについて

検討していく必要がある。

鈴木副市長

- ・ 本来は、議論の結果としてまとまった区割りの候補案をお示しすれば分かりやすかったと思うが、現時点ではまだまとまっていないため、途中の段階でご説明することとなった。
- ・ 複数の区割り案をお示ししたことで、戸惑っている市民も多いと思うが、区役所で受けられていたサービスは行政センターでも受けられるようにしていくことや、これまで実施してきた地域の事業や取組は区再編後も継続していく。

発言者④

- ・ 北区民の意見を代表して発言をさせてもらおうと、「区の再編は時期尚早である」との意見や「再編する必要はない」との意見を北区民の多くが持っている。
- ・ 強いて言えば、5区案が市民の声を一番聞いており、個人的には良い案だと思っている。北区民も天竜区民も、2区案・3区案には、もろ手をあげて賛成することはないはずだ。
- ・ 改革の案がどれだけ良くても、市民協働の理念のもと、市民が手を携え、やらまいか精神で取り組んでいかなければダメである。

発言者⑤

- ・ 当局の15分の説明では分からない部分もあったが、副市長の話聞いてなるほどと思った。
- ・ 再編によって南区がなくなっても、現在の区役所庁舎に行政センター的な機能を残してもらえると聞いて安心したが、もっと説明してもらわないと納得できない部分もある。

発言者⑥

- ・ 浜北区民生委員約30人に賛否を聞いたところ、賛成2人・反対10人で、現時点で賛否を示さなかった者もいた。現状では、賛否を決めかねている人が多いということだ。
- ・ 浜北区が旧浜北市単独で残っているのは、「浜北」という名前を残したいという思いが強いから。今回、再編することになった場合、地域コミュニティの維持を含め、地域の思いを考慮してほしい。

発言者⑦

- ・ 当局の説明では、現行7区のままという案はもうないように受け取れた。現行7区のままという選択肢もあるのか。
- ・ 天竜区は5市町村の合併であるが、観光協会も1つにまとまる等、ようやく一体感ができてきた。単独区で残るならまだしも、合区をすると天竜区民はつらい思いをする。
- ・ 情の部分ではあるが、だんだんと市が遠くなっていく感じがしている。自分

のふるさとがどこか、郷土愛はどこにあるのかといったことが分からなくなる。

鈴木副市長

- ・ 2区案・3区案を提案している市の立場上、7区案もあると市側から申し上げることはできないが、特別委員会で1案にまとめきれなければ、現行7区のままということもありうる。
- ・ ようやく一体感が醸成されてきたところで、他区と一緒にするのは理解できないという意見は、市長や議会に報告させていただく。

発言者①

- ・ 区の数を変えるのではなく、部局の組織を1つにして、出張所を配置していく等、行政内部の改革をした上で、具体的な組織の姿等が見えてこない、市民は納得しない。
- ・ 各区の歴史や文化を尊重すると言うのであれば、市民の心情的な部分も含めて検討してほしい。
- ・ 中区は25万人おり、最も中区が負担している。一番大きな顔をして良いと思っている。
- ・ 市民全体に幸福感や安心感が生まれるのであれば、区を再編することにも納得できる。

鈴木副市長

- ・ 平成28年2月以降、議会で合併の検証をしてきた。皆様からご質問いただいたことについては、その検証の際に議会で議論されてきたことであるが、説明会においては端折って説明している部分もあり、市民には分かりにくい部分もある。
- ・ 合区や経費削減だけを目的としているわけではない。各地域の実情を踏まえ、サービスの維持を前提条件とした今回の提案をしている。
- ・ 12市町村合併という浜松市として大きな変化を経験し、制度や背景の違い等を組織集約の際にまとめきれない部分もあるし、市民の考えも心情的には理解できる。しかし、まとめるべき部分とそうでない部分はしっかりと区別して説明をしてきたと認識している。
- ・ 行政組織だけを新しい組織に変え、効率的な行政運営やサービスの継続をすれば、市民に迷惑はかけないという考えのもと、議会で議論をしてきた。
- ・ 新しい浜松市へと進むステップとして組織体制を見直していく方が良いと考えている。
- ・ 最大の行政規模であった旧浜松市を分割したことによる歪みの解消を含め、区の再編を考えていきたいという背景もある。

発言者④

- ・ 財政的に大変ならば、部を統合すればいい。市も総合的な取組を頑張っているから、市民も耐えてくれというのであれば、理解はできる。
- ・ 浜北区と一緒にした場合、北区から浜北区役所にバスが通っていないにも

関わらず、どうやって区役所まで行けば良いのか。

鈴木副市長

- ・ 区役所が行政センターになっても、住民サービスは合区前と変わらず残る。一部、業者が手続きする業務等は区役所での取り扱いになるものもある。

発言者①

- ・ 7区全てに区役所がないといけないのか。

川嶋総務部長

- ・ 法律上は区役所を設置する必要がある。

発言者①

- ・ 現行7区のみで、兼務を増やす等、組織体制を見直して財源確保することもできるのではないか。

発言者⑥

- ・ 今後、区自治会連合会に説明をして、パブリックコメントを実施するとのことだが、再度我々に説明をする予定はあるのか。異論があるままパブリックコメントを実施するのか。

鈴木副市長

- ・ 本日午前中の浜北区自治会連合会への説明で、浜北区は単独の区として残したいというご意見をいただいた。これらのご意見は市長、議会へ報告し、議論に結び付けていく。

発言者①

- ・ 浜松市の自治会は堅固な組織であり、加入率も高い。自治会を中心にしながら、区協議会はいろいろな立場の団体で構成されている。市民に対し、あからさまに再編案を示して、「どうだ」と進めて行けばいいのではないか。
- ・ 合区ありき、10億削減ありきではなく、いろいろな意見への市の回答をもらえれば、市民の理解も得られるのではないか。頭の片隅に置いてほしい。